
静寂の音

snowman

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

静寂の音

【コード】

N2693D

【作者名】

snowman

【あらすじ】

これからどうなるか分からないストーリーです。

第一話

身体の何処？

君と同化した部分・・・

確かに存在する其れを僕は知らない

まるで引き寄せあつかのように

出会いと表現するにはあまりに陳腐でそぐわない

それは再会

遙か遠くから導かれた同士

決められた運命など要らない

あるのは現実と幻想の狭間

言葉とメロディー

すべては君に届くように

いつからだっただか。

それは耳鳴りのように彼女の鼓膜を刺激していた。

彼女高田蒼音は、ただ生きている。

朝起き・仕事に行き・出来るだけ何も起きないように働き・帰る。まわりの人々と同じように、波風が立たないように。

小さな頃は人見知りで内気な子だった。

そして歳を重ねるにつれて人との付き合い方を身に着けた。

初対面の人には笑顔で少し冗談を交えて挨拶をする。

仲良くなってもそれは変わらず、笑顔で相手を笑わせながら会話をしていたら人間関係などに問題が起きたりは殆どしない。

しかし蒼音にとってそれはとても心を磨り減らすことだった。

相手の顔色を窺う作業。

友達や仕事仲間に「蒼音は面白いとか明るい」などと言われても、正直嬉しいなんて思えなかった。

まるで、他人と接している時の自分がピエロのように思えて仕方ない。

本当の自分が何処にあるのか分からないことに気付かないフリ。人と心の底から分かり合うことなど、どう考えても無理に思える。

私の心は何処にある？

この鼓膜に響くメロディーは私のもの？

それとも他の誰かのもの？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2693d/>

静寂の音

2010年11月13日19時33分発行